

## 6 中学校 音楽科 問題用紙

(2枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

1 次の1～3に答えなさい。

1 次の短歌を基に、下の【条件】に従って作曲し、解答欄の五線譜に書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

【条件】

- ① ピアノ伴奏付きの独唱曲とすること。ただし、前奏、間奏及び後奏については必要としない。
- ② 調は変ロ長調とすること。
- ③ 拍子は単純拍子とすること。
- ④ 長さは、16小節を超えないこと。
- ⑤ 曲の冒頭に長七の和音を用いること。
- ⑥ 曲の途中で、曲想を変化させること。
- ⑦ トニックで終止すること。
- ⑧ メッツ・スタッカートを用いること。
- ⑨ ポルタメントを用いること。

2 次の(1)～(4)の世界の諸民族の音楽に関する語句の説明として適切なものを、下の(ア)～(キ)のうちからそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

(1) ケチャ      (2) オルティンドー      (3) カッワーリー      (4) ヨーデル

- (ア) パキスタンなどに伝わる宗教的な歌。主唱者とコーラスが交互に歌う。伴奏には、ハルモニウムなどが用いられる。
- (イ) ペルシア語で「声」を意味する。拍節のない自由なリズムで演奏される音楽。
- (ウ) 台湾の先住民の音楽。リーダーが発した低音の歌声に合わせてハーモニーを重ね、徐々に音域を高めていく。
- (エ) 裏声と地声を交互に組み合わせる歌唱法を特徴とする音楽。牧畜作業に伴って歌われてきた。
- (オ) 男性の集団が輪になって座り、リズムを刻むような言葉を唱えながら、体を揺り動かし踊るもの。
- (カ) モンゴルに伝わる民謡の一つ。拍のない音楽で、コブシのような細かい節回しの特徴。
- (キ) 一人で2つの音を発する唱法。

3 次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 三曲合奏とはどのようなものですか。書きなさい。

(2) 次の①～④の尺八の奏法に関する説明として適切なものを、下の(あ)～(お)のうちからそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

① スリ上げ      ② コロコロ      ③ メリ      ④ タマネ

- (あ) 顎を引き、下唇で歌口を狭くして音高を下げる奏法。
- (い) 舌、または喉を震わせながら吹く奏法。
- (う) 閉じた指孔を徐々に開けて、音高を上げる奏法。
- (え) 顎を出し、歌口を広く開けて音高を上げる奏法。
- (お) 三孔を閉じ、四、五孔は指で覆うような状態にしたまま、一孔と二孔を交互に開閉する奏法。

(2枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

2 平成29年3月告示の中学校学習指導要領 音楽 [第2学年及び第3学年] 内容 A 表現 (3) には、次のように示されています。

<p>(3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。</p> <p>(ア) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴</p> <p>(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴</p> <p>ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。</p>
---

ア、イ(ア)及びウを組み合わせた題材を設定する場合、どのような学習活動が考えられますか。次に示された生徒の状況を踏まえ、題材名を挙げて、3時間で扱う学習活動を書きなさい。ただし、用いる音階は、沖縄音階とします。

生徒の状況	<対象学年> 第2学年
	生徒はこれまでに、郷土の様々な民謡を鑑賞する活動を行った。

3 第1学年の鑑賞の授業において、「魔王」(シューベルト作曲)を教材として取り上げました。生徒は、「不気味な感じがする。」「おもしろい曲だ。」といった表層的な捉えに留まり、音楽のよさや美しさを味わって聴くことは十分ではありません。生徒が、曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考えるためには、どのような指導が考えられますか。教材曲の特徴に触れて、具体例を2つ書きなさい。

4 次の1・2に答えなさい。

1 平成29年3月告示の中学校学習指導要領 音楽 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (2) ウ には、次のように示されています。

ウ 相対的な音程感覚などを育てるために、適宜、㊸移動ド唱法を用いること。
--------------------------------------

文中の下線部㊸「移動ド唱法」とは、どのようなことですか。書きなさい。

2 平成29年3月告示の中学校学習指導要領 音楽 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (5) には、次のように示されています。

(5) 読譜の指導に当たっては、小学校における学習を踏まえ、 $\sharp$ や $\flat$ の調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1 $\sharp$ 、1 $\flat$ 程度をもった調号の楽譜の㊹視唱や視奏に慣れさせるようにすること。
---


文中の下線部㊹「視唱」について、小学校音楽科[第5学年及び第6学年]では、どのような技能を身に付けることとされていますか。書きなさい。

6

中学校 音楽科 解答用紙

(4枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄
1	1	 <p>kyosai-guild</p>

6

中学校 音楽科 解答用紙

(4枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄				
1	2	(1)				
		(2)				
		(3)				
		(4)				
	3	(1)	kyosai-guild			
		(2)			①	
					②	
					③	
④						

6

中学校 音楽科 解答用紙

(4枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号	解答欄				
2	題材名 ( )				
	<table border="1"><thead><tr><th>時間</th><th>学習活動</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td></tr></tbody></table>	時間	学習活動		
	時間	学習活動			
※ 必要に応じて線を引いてもよい。					

6

中学校 音楽科 解答用紙

(4枚のうち4)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄
3		
4	1	
	2	

中学校音楽科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点			
1	1	※ 別紙 (計1枚)		問いを正しく捉えてい れば、内容は異なってい てもよい。	50	95	
	2	(1)	(オ)		各 5 × 4		
		(2)	(カ)				
		(3)	(ア)				
		(4)	(エ)				
	3	(1)	箏、三味線、尺八 (又は胡弓) の3種の楽器で合奏すること。		内容を正しく捉えてい れば、表現は異なってい てもよい。		5
		(2)	①	(う)			各 5 × 4
			②	(お)			
			③	(あ)			
			④	(い)			

中学校音楽科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点								
2	<p>題材名（沖縄音階の特徴を生かして旋律をつくろう）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">時 間</td> <td style="text-align: center;">学 習 活 動</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第1時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○沖縄音階の特徴を捉える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の様々な民謡に用いられている五音音階を基に、自由に音を出してみる。</li> <li>・自由に音を出したり、聴いたりしながら、感じ取ったことを話し合い、沖縄音階の特徴を学級で共有する。</li> </ul> </li> <li>○沖縄音階を用いた短い旋律をつくりながら、音のつながり方の特徴を捉え、本題材の学習の見通しをもつ。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの楽器で沖縄音階を用いた短い旋律をつくる。</li> <li>・音色による感じ方の違いや、音のつながり方による感じ方の違いについて話し合う。</li> <li>・沖縄音階で音楽をつくることを確認する。</li> </ul> </li> <li>○再度自由に音を出し、自分のイメージを膨らませる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階を基に、自由に音のつながり方を試しながら、分かったことや気付いたことをワークシートに書く。</li> </ul> </li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第2時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表したいイメージをもち、音階や音のつながり方の特徴を生かして創意工夫し、旋律をつくる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階を基に、自由に音を出しながら、表したい創作表現について考える。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">＜音楽をつくる際の課題や条件＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①イメージについては、「2つのこと（もの）が時間の経過とともに、どのように変わっていくか」ということを基に考える。</li> <li>②表したいイメージと関わらせながら、8小節の旋律をつくる。</li> <li>③沖縄音階を用いる。</li> <li>④いくつかの楽器を試し、イメージに近づける。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいイメージについて、実際に「沖縄音階を用いた旋律」をつくる場合のイメージとはどのようなものがあるか考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">＜予想される、生徒が考える「表したいイメージ」の例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄の海で、カメと熱帯魚が泳いでいる様子</li> <li>・中学生二人の会話が、だんだん盛り上がっていく様子</li> <li>・赤と白のハイビスカスの花が咲く様子</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試行錯誤しながら旋律をつくる過程で思い付いた新たなイメージを生かしたり、イメージ自体が変わったりしてもよいことを確認する。</li> <li>・実際に演奏しながら、どのように旋律をつくるかについて考え、つくった旋律をワークシートに書く。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第3時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音階や音のつながり方の特徴と表したいイメージとを関わらせて、まとまりのある創作表現を創意工夫する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人一組になり、ワークシートに書いた旋律を演奏する。</li> <li>・実際に演奏したり、意見交換をしたりしながら旋律をつくり、つくった旋律について互いに助言をする。</li> <li>・つくった旋律を発表し、学級全体で作品についての意見を出し合い、自分の作品を再度見直す。</li> </ul> </li> <li>○題材のまとめと振り返りをする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階の特徴を生かした創作表現について、自分の考えの深まりや広がりについての変容を振り返り、感じたことについて学級全体で意見交換をする。</li> <li>・再度、それぞれの作品を演奏し、楽しむ。</li> </ul> </li> </ul> </td> </tr> </table>	時 間	学 習 活 動	第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○沖縄音階の特徴を捉える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の様々な民謡に用いられている五音音階を基に、自由に音を出してみる。</li> <li>・自由に音を出したり、聴いたりしながら、感じ取ったことを話し合い、沖縄音階の特徴を学級で共有する。</li> </ul> </li> <li>○沖縄音階を用いた短い旋律をつくりながら、音のつながり方の特徴を捉え、本題材の学習の見通しをもつ。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの楽器で沖縄音階を用いた短い旋律をつくる。</li> <li>・音色による感じ方の違いや、音のつながり方による感じ方の違いについて話し合う。</li> <li>・沖縄音階で音楽をつくることを確認する。</li> </ul> </li> <li>○再度自由に音を出し、自分のイメージを膨らませる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階を基に、自由に音のつながり方を試しながら、分かったことや気付いたことをワークシートに書く。</li> </ul> </li> </ul>	第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表したいイメージをもち、音階や音のつながり方の特徴を生かして創意工夫し、旋律をつくる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階を基に、自由に音を出しながら、表したい創作表現について考える。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">＜音楽をつくる際の課題や条件＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①イメージについては、「2つのこと（もの）が時間の経過とともに、どのように変わっていくか」ということを基に考える。</li> <li>②表したいイメージと関わらせながら、8小節の旋律をつくる。</li> <li>③沖縄音階を用いる。</li> <li>④いくつかの楽器を試し、イメージに近づける。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいイメージについて、実際に「沖縄音階を用いた旋律」をつくる場合のイメージとはどのようなものがあるか考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">＜予想される、生徒が考える「表したいイメージ」の例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄の海で、カメと熱帯魚が泳いでいる様子</li> <li>・中学生二人の会話が、だんだん盛り上がっていく様子</li> <li>・赤と白のハイビスカスの花が咲く様子</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試行錯誤しながら旋律をつくる過程で思い付いた新たなイメージを生かしたり、イメージ自体が変わったりしてもよいことを確認する。</li> <li>・実際に演奏しながら、どのように旋律をつくるかについて考え、つくった旋律をワークシートに書く。</li> </ul>	第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音階や音のつながり方の特徴と表したいイメージとを関わらせて、まとまりのある創作表現を創意工夫する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人一組になり、ワークシートに書いた旋律を演奏する。</li> <li>・実際に演奏したり、意見交換をしたりしながら旋律をつくり、つくった旋律について互いに助言をする。</li> <li>・つくった旋律を発表し、学級全体で作品についての意見を出し合い、自分の作品を再度見直す。</li> </ul> </li> <li>○題材のまとめと振り返りをする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階の特徴を生かした創作表現について、自分の考えの深まりや広がりについての変容を振り返り、感じたことについて学級全体で意見交換をする。</li> <li>・再度、それぞれの作品を演奏し、楽しむ。</li> </ul> </li> </ul>	<p>題材名及び学習活動は、問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	65
時 間	学 習 活 動										
第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○沖縄音階の特徴を捉える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の様々な民謡に用いられている五音音階を基に、自由に音を出してみる。</li> <li>・自由に音を出したり、聴いたりしながら、感じ取ったことを話し合い、沖縄音階の特徴を学級で共有する。</li> </ul> </li> <li>○沖縄音階を用いた短い旋律をつくりながら、音のつながり方の特徴を捉え、本題材の学習の見通しをもつ。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの楽器で沖縄音階を用いた短い旋律をつくる。</li> <li>・音色による感じ方の違いや、音のつながり方による感じ方の違いについて話し合う。</li> <li>・沖縄音階で音楽をつくることを確認する。</li> </ul> </li> <li>○再度自由に音を出し、自分のイメージを膨らませる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階を基に、自由に音のつながり方を試しながら、分かったことや気付いたことをワークシートに書く。</li> </ul> </li> </ul>										
第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表したいイメージをもち、音階や音のつながり方の特徴を生かして創意工夫し、旋律をつくる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階を基に、自由に音を出しながら、表したい創作表現について考える。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">＜音楽をつくる際の課題や条件＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①イメージについては、「2つのこと（もの）が時間の経過とともに、どのように変わっていくか」ということを基に考える。</li> <li>②表したいイメージと関わらせながら、8小節の旋律をつくる。</li> <li>③沖縄音階を用いる。</li> <li>④いくつかの楽器を試し、イメージに近づける。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいイメージについて、実際に「沖縄音階を用いた旋律」をつくる場合のイメージとはどのようなものがあるか考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">＜予想される、生徒が考える「表したいイメージ」の例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄の海で、カメと熱帯魚が泳いでいる様子</li> <li>・中学生二人の会話が、だんだん盛り上がっていく様子</li> <li>・赤と白のハイビスカスの花が咲く様子</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試行錯誤しながら旋律をつくる過程で思い付いた新たなイメージを生かしたり、イメージ自体が変わったりしてもよいことを確認する。</li> <li>・実際に演奏しながら、どのように旋律をつくるかについて考え、つくった旋律をワークシートに書く。</li> </ul>										
第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音階や音のつながり方の特徴と表したいイメージとを関わらせて、まとまりのある創作表現を創意工夫する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人一組になり、ワークシートに書いた旋律を演奏する。</li> <li>・実際に演奏したり、意見交換をしたりしながら旋律をつくり、つくった旋律について互いに助言をする。</li> <li>・つくった旋律を発表し、学級全体で作品についての意見を出し合い、自分の作品を再度見直す。</li> </ul> </li> <li>○題材のまとめと振り返りをする。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階の特徴を生かした創作表現について、自分の考えの深まりや広がりについての変容を振り返り、感じたことについて学級全体で意見交換をする。</li> <li>・再度、それぞれの作品を演奏し、楽しむ。</li> </ul> </li> </ul>										



中学校音楽科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点		
3	<p>例えば、「怖い曲ですね。」「焦っている様子が分かります。」など、教師が感じ取った曲想を伝えたり、「魔王は通作歌曲です。」など、その曲の形式などを覚えられるようにしたりする、ということに留まらず、「旋律の変化は子のどのような様子を表しているのでしょうか。」「なぜそのように感じたのでしょうか。」と問うなど、生徒が曲想を感じ取り、感じ取った理由を、音楽の構造の視点から自分自身で捉えていく過程を重視した指導。</p>	<p>問いを正しく捉えていけば、内容は異なっていてよい。</p>	各 10 × 2	20	
	<p>例えば、「この曲の、3連符のリズムが用いられている前奏は、嵐の中を走る馬のひづめの音のように聴こえて、これから始まる物語の予告のようで惹き付けられる。」など、曲や演奏のよさや美しさに対する自分なりの評価について、曲想と音楽の構造との関わりなどを根拠として挙げながら言葉で表し、他者に伝える活動を取り入れた指導。</p>				
4	1	<p>長音階の場合はド、短音階の場合はラをそれぞれの主音として、その調における相対的な位置を、ドレミファソラシを用いて示す階名を用いて歌うこと。</p>	<p>内容を正しく捉えていけば、表現は異なってもよい。</p>	10	20
	2	<p>範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌う技能。</p>	<p>内容を正しく捉えていけば、表現は異なってもよい。</p>	10	

1

1

Kyosai-guild

著作権保護の観点により、掲載いたしません。